

## 平成 22 年度 第 4 回府中市環境審議会

---

平成 22 年 (2010 年) 11 月 9 日 (火)

午後 6:30~8:30

府中市役所北庁舎 3 階 第 4 会議室

---

### 〈出席委員〉 12 名

朝岡幸彦会長、竹内 章副会長、伊藤 忠委員、梅沢みどり委員、清水淑子委員、  
多田眞委員、荒木 茂委員、岩本祥子委員、比留間吉郎委員、増山弘子委員、  
宮地 賢委員、伊豆田 猛委員

### 〈欠席委員〉 3 名

清水 勝委員、大西郷子委員、室 英治委員

### 〈傍聴者〉 なし

### 〈事務局〉

加藤環境政策課長、遠藤環境政策課長補佐、佐藤環境改善係長、環境改善係海野職員  
(株)建設技術研究所 (コンサルタント)

---

### 〈審議事項〉

- 1 府中市地球温暖化対策地域推進計画答申案  
(第 7 章・第 8 章について検討)

## 〈議事概要〉

### 1. 挨拶

会長 それでは開会する。議事録は、本日配布したものなので次回までにご確認いただきたい。それでは、議事に入る。

### 2. 議事

事務局 配布資料の確認。その後、論点メモ及び関連性資料について事務局より説明する。

会長 議論の確認をしたい。この環境審議会において、重点プロジェクトをどこまで決めてしまってよいのか。論点メモに事務局の対応方針が示されているということは、環境審議会だけでは決めきれないことと理解すべきか。それとも、環境審議会による答申後、庁内で検討するものであるから、答申を行う計画案までは環境審議会の責任で検討を進めてよいのか。

事務局 そのような理解で構わない。

会長 計画案は答申事項。実現性のない重点プロジェクトの決め方はよくない。答申が終わったあと修正するなら修正すると言っているのではないのか。

事務局 そのとおり。

会長 審議会としては推進計画案を答申する。重点プロジェクトもここで議論させていただく。

各委員のご意見に期待して、事務局から対応方針案もでている。資料として個別政策の関連や評価も出ているので、自由にご質問やご意見を伺いたい。

副会長 事前に4名からご意見を頂戴した。それぞれのご意見に対して、事前に私と増山委員、そして市とコンサルで事前協議を持たせて頂いた。その結果を対応方針案として今回提示している。

会長 取っ掛かりが必要なので、まずは意見を出された委員から伺いたい。

委員 意識改革が非常に重要な視点だという観点から意見を示した。LEDなどは、実際にやってみると、まだ省エネ効果が小さいなど、正しい情報提供があるとよい。また、市民参加型の太陽光発電システム設置の仕組みなどもあると良いと思う。

会長 意識改革という文言を入れても差し支えないということは、64ページの項目の中に意識改革を入れると理解していいのか。

大きな問題がないのは、入れると理解するのか、既に入っていると理解するかでだいぶ違う。どのように処理すればいいか。

会長 ④は不確定要素が大きいので、推進計画案に盛り込むのは難しい。①、②番は問題ないか。

副会長 問題がないというか、加味されているという意味。盛り込み事項と考えるべき。  
④は、今回は外してもいいのではないか。

会長 意識改革という言葉はないけれど、意識を高める方策が入ってはいる。事務局  
の対応方針案では、これはすでに計画に含まれていると読めばよいのか。

副会長 環境学習というものをエコスクール化も含めて議論したい。

会長 環境学習を重点プロジェクト6とするかどうかについては、後ほど、十分に時  
間を取って議論したいと思う。

委員 重点プロジェクトに都市整備等のヒートアイランド対策を含めるのが良いと  
思う。

事務局 その点は難しい。

会長 難しいのではないかとのことである。

会長 個別の論点について⑥以外の議論を先にしたい。

委員 CASE2 の場合、単純に CO2 削減効果のところの◎や△の点数を足して 20 点満  
点にしたということか。その論理付けの仕方もいかがか。環境教育や環境学習、  
意識改革、というのは考えて行うべき。CO2 削減効果が高いものから選んでい  
くのもひとつの手だが、実現性と CO2 削減効果というものに重み付けしたとき  
に評価点の CASE1 と CASE2 がだいぶ変わってしまう。何か検討したのか。

事務局 今回のケースでは行っていない。単純に足した場合と、CO2 削減効果の重みを増  
やして足したものである。

委員 実現性と CO2 削減効果での◎と△では重み付け次第でだいぶ違う評価になる  
ということに理解する。

会長 CASE1、CASE2 の評価が高いことを踏まえてどういう議論をすればいいのか。  
何のために評価点がついているのか補足説明をお願いします。

事務局 この計算式で実現性と CO2 削減効果が事務局としては、そこが重要と思い資料  
として提出した。学校のエコスクール化の推進が非常に重要な所ではあると思  
うが、CO2 の効果としては評価は下がってしまう。

会長 順位付けをしてこれは積極的に取り組むけど、個別施策はあまり積極的に取り  
込まないというのを求められているようだが、評価点を加える意味がない。そ  
ういう意味ではないのか。

事務局 そういう意味ではない。

会長 参考資料としてみていただきこの推進計画の重点領域と重点プロジェクトを  
決めているので、重点施策までは踏み込まない。ということでしょうか。

委員 そのとおりだと思うが、ここで分析をして方法を編出すというのではなく、こ  
の考え方が、継続していけるような仕組みを考えたらいいのではないか。

委員 省エネ行動の実践の、エコドライブの推進とあるが、もっと詰めないで市民が

取り組めないと思う。

会長 進行管理上の評価は必要だが、現段階では優先順位をつけない方が議論しやすいのではないか。

委員 関連性の資料では省エネ家電などの評価点が低く、疑問点もある。公表資料としない方が良いのではないか。

会長 公表しないことは事務局に確認した。環境教育の議論をしたい。

副会長 重点プロジェクト6について説明。

会長 ご説明いただいた。いかがか。

委員 このプロジェクトは、子どもに対してのものなのか。それとも学校へのハード面での対策となるのか。

副会長 将来的に人材を育成しようという意味。

委員 ハード面の対策があっても子ども達の意識の向上につながっていないのではないかと感じる。ソフト面の対策の充実が必要なのではないかと思う。

副会長 現在のところ全体をとおした環境学習プログラムがない。

委員 環境教育は不可欠である。

会長 このプロジェクトについて不要との意見はないようであるが、いかがか。

委員 重点プロジェクトに入れるべきである。

委員 重点プロジェクトとして必要であろう。

委員 全体的な環境学習プログラムがないのはそのとおりである。ぜひ、市がリードして進めるべきである。

委員 対象を子どもに限る必要もないのではないか。

委員 エコスクールはハード面で難しいということであれば、教材の作成をプロジェクト1に加えることもあり得るのではないか。

副会長 エコスクールというタイトルにして、大人向けの対策を入れてはどうか。子どもだけでは難しいかも知れない。

会長 環境教育の推進としてはどうかと思う。重点プロジェクト6に環境教育を加えていきたい。

委員 ハード面での対策は重点プロジェクト4に残して、ソフト面の対策を重点プロジェクト6に入れるのが良いのではないか。

事務局 1990年比15%削減達成のため7章に重点的に取り組むべき施策として入れている。重点分野といった部分では触れているが副出しをしている重点プロジェクトでは今のところ載せているだけ。

会長 論点1の議論はしてこなかった。

副会長 重点プロジェクトの抽出のアプローチは必要ではないか。

会長 基準が明示されていない。論点メモの四角の「重点抽出するための選定基準は」

と書いてある3つの項目を、重点プロジェクトを選ぶための基準として掲載したらわかりやすいのではないかということ。

- 副会長 選定した理由は少なくともあったほうがよい。
- 委員 重点プロジェクトに6を加えるのは良いと思う。
- 会長 論点メモを冒頭に掲げれば良いのではないか。なお、竹内副会長と調整して重点プロジェクト6を作成して頂けないか。他のプロジェクトとの調整を含めてお願いしたい。
- 会長 第8章の修正案がないので、また次回とする。他の部分の修正も含めて全体的に修正したものを示していただきたい。
- 副会長 人口の将来推計の問題であるが、他の計画ではより少なくなっている。
- 事務局 人口の将来推計について説明。
- 会長 では、今日の会議はこれで終とする。次回の環境審議会は12月2日、第二庁舎である。

以上